

## ● シリーズ 私の見た日本 Vol.168

## 多くの価値観が共存する日本の建築

石 林大 (セキ リンダイ)

中国出身  
 1996年 中国大連理工大学卒業  
 2001年 九州大学大学院人間環境学科修士課程修了  
 福岡の建築事務所入所  
 2005年 日本設計へ転職、上海赴任  
 2016年 本社赴任  
 現在、日本設計国際プロジェクト群建築設計グループ主管



初めて日本を訪れたのは20年よりも前のことだ。

大学を卒業して日本の大学院に進学するために、4月の暖かい緑あふれる福岡に到着した日を今でもハッキリと思い出す。

街中にはガラスカーテンウォール、コンクリート打ち上げや木造戸建住宅など、当時の中国であまり見られない建物が多かった。1つ1つの建物や街区のスケールは比較的小さく、デザインも様々で乱雑に感じたものだ。その後、次第に慣れてくると、そのバラエティーさは日本の多様な価値観から来るものだと次第に理解をしていった。

そのような街の印象を抱きながら大学院生を過ごし、その後就職し働く場所も福岡、上

海そして東京と、日本と中国を交互に暮らしているうちに日本の建築への理解も徐々に深まっていった。

## 自然との共生

日本へ来て初めて友人が連れて行ってくれた山登りから始まって、秋の紅葉狩り、冬の温泉、春の桜花見など、様々な自然体験を通して、日本人の自然を楽しむ感覚に慣れてきた。日本人にとって自然はこんなに身近なもので、季節による変化を楽しみ、自然とどのように共存していくかを、中国の都市部で育てられた私は初めて経験していくことができた。

その自然と共存した建築の姿の中で特に記憶に残っているのは伊勢神宮だ。伊勢神宮は

神殿を新造して神々を遷すという式年遷宮によって20年に一度建替えられる。同じ工法で姿を変えることなく、自然が常に生まれ代わるように若々しい姿を見せる。緑豊かな杜の環境の中で自然と一体となり、共生している姿を美しいと思った。

一方福岡の中心部に建つアクロス福岡はもう1つの自然と一体となった現代の建築だ。建物は中央公園に面する南側に、階段状の屋上から緑が流れ出し、多様な姿で公園と一体になったようにも見える。その迫力とアイデアに魅せられた。

九州のほかの都市も、大分の磯崎新の作品や熊本のアートポリスなど、学生時代の余暇を利用して優れた作品を見て廻った。地元で入手しやすい自然素材を利用した建物など、自然との共存を意識したものが多く見られた。

同時期に九州大学の大学院に公営住宅使用実態の研究チームに入り、佐賀県唐津市と福岡県北九州市にある2カ所の公営住宅の調査に参加した。地方自治体の低所得者向けの賃貸住宅が使用開始された後、使われ方をヒアリングし間取りをスケッチで記録しその分析を行った。その「設計→使用→調査→設計の見直し」というフィードバックまで含めたプロセスを通じて、共有しよりよいものを提供しようとする社会全体の取り組みを理解することができた。

## 竣工後のメンテナンス

大学院を卒業した後、福岡の建築事務所に就職した。いくつかの保育所のプロジェクトを担当した。



上海中星城



無錫中央駅



上海近鉄都市広場

この時は小さな保育所であっても、あれだけ多くの設計図を描かなければならないことに驚いた。詳細図面は隅々まで描かれ、図面で建物のすべてを表現するように指導を受けた。その後図面通り、精緻に施工された実際の建物を見てその技術力に感動した。

その詳細図面の多くは、竣工後のメンテナンスへの配慮を目的としたものでもあった。日本ではメンテナンスのしやすさも建築への評価軸の1つである。

北九州小倉城にあるリバーウォークは、複雑なボリュームが重なった外観が特長的だが、外壁カーテンウォールの掃除用ゴンドラのレールはそのユニークなデザインに寄り添うように融合されている。

## 伝統への尊重

日本に来て8年経ったころ、目覚ましい発展を始めていた中国は、私にとって改めて魅力的に映った。その後中国にも拠点のある日本設計に転職し、上海にしながら中国全土の仕事を開始した。それから、日本設計上海拠点の成長とともに、上海、無錫、廈門、天津、長春などの都市部のプロジェクトを担当し、有能な仲間達にも恵まれ、スケールの大きな建物を経験していくことになった。

上海にしながら出張を利用して東京の建築を多く見学した。離れて改めて日本の建築を見ると、この時期にできた国立新美術館、東京ミッドタウンと虎ノ門ヒルズなど多様な機能が複合した複雑な再開発は印象的だった。

一方、たくさんの海外設計事務所が進出する中国で設計に求められるものは、憧れている先進国の都市と同等の環境である。中国では都市環境を維持するために歴史や伝統を尊重する意識は徐々に醸成されつつあるが、まだ低い。ヨーロッパの都市ではごく当たり前だが、古い街並みはよく見られる風景ではあるが、中国と近い文化のルーツを持つ日本にも優れた実例が存在する。

日本橋地区のランドマークである日本橋三

井タワーは、隣接する三井本館(明治時代デザインの重要文化財)との調和を意識し、三井本館の保存と再開発を両立したことが評価されている。街を更新するときに建物を完全に变えるのではなく、新しい建物は現代の技術を使いながら既存の古い建物と調和し、落ち着いた美しい街づくりにつながっている。

## 多彩な公共施設

2016年に中国プロジェクトを続けながら東京の本社へ勤務が決まった。空港、鉄道、地下鉄、バスなど、東京の公共交通機関の正確さと便利性に感動した。

電車は時刻通りに走り、どこに行っても中国であたり前にある鉄道と地下鉄のセキュリティチェックはない、交通施設の計画も優れている。出張で羽田空港を利用するときに飛行機を降りそこから電車ホームに着くまでの時間は15分間程度しかかからない。世界のどの空港にもない便利さだ。

また交通だけではなく公共エリアにもストレスを感じることなく、リラックスしていることができる。東京では住宅が広くないが、公

園、広場などの公共空間が充実されている。季節のよいときには多くの人で利用される。

合理的な機能、洗練されたデザイン、多彩な公共空間があちこちにある。たとえば都庁近くの西新宿エリアはその一例だ。立体的な歩車分離と緑豊かな公共空間が特徴的だ。その中に我々のオフィスがある新宿三井ビルがある。足元に位置するサンクンガーデンは時を経ても魅力を衰えることなく、むしろ環境に馴染み、とても居心地の良い空間となっている。

振り返れば九州大学の研究室、福岡の建築事務所、日本設計の上海支社と本社など、支えてくださった方に感謝の気持ちでいっぱいだ。それがなければ大好きな建築設計にかかわることなく、日本の建築への理解も深めることもできなかっただろう。

今また新緑の季節になった。すでにAIと自動運転技術が開発されている今日、日本でも建築設計においてBIMなどの新技術への応用が始まっている。これからの建物または都市環境がどのように変わっていくか、さらに楽しみだ。

(校正・校閲: 譚井章 / 日本設計)



左/博多の町並みと山笠 右上/アクロス福岡 右下/山の子保育園\_庇の下



山の子保育園



青葉保育園(工事中)



左上/室町一丁目リヴァウォーク北九州\_外観 左下・右/新宿三井ビル